

文化講座 初等教育学科「特殊研究講座」(平成 28 年度)

平成 28 年 9 月 30 日 (金)

絵本と歌で伝えるいのちの大切さ ～くまのこうちょうせんせい・かあさんのこもりうたより～

絵本作家・シンガーソングライター・ラジオパーソナリティ こんの ひとみ氏

人間社会学部研究会 (平成 28 年度) 要旨 (初等教育学科関連)

平成 29 年 2 月 1 日 (水)

下級生に語ることを通した自己の実習経験における意味づけの再構築 ～過去の保育実習経験の捉え直しをもたらすもの～
専任講師 遠藤 純子

はじめに ナラティブは語り手と聞き手の共同作業によって成立する社会的な行為であり、社会的な産物である(野口, 2009)。聞き手の関心や知識、反応を前提に、異なった出来事が選ばれ、強調点も変わり、経験への意味づけが変わっていく。本研究では、下級生に実習経験を語るという行為のプロセスに着目し、語る中でなされる自己の実習経験の捉え直しがもたらすものについて検討する。

方法 8～11 か月前に保育実習 I B を終えた上級生が、1～4 か月後に同じ実習先での実習を控えた下級生に実習経験を語るグループワークを 2016 年 4 月に実施した(1 グループは 2～5 名)。予め上級生は実習に不安を抱いている下級生を励ますよう伝えられ、自分が成長したこと・下級生に伝えたいことを事前課題として書き纏めた。グループワーク終了後に感想を記入し、本研究での分析対象とした。記述された感想は質的な意味をもとに一記録単位とし、各々にラベルを付与した。ラベルを内容の類似性に基づき分類しカテゴリー命名を行った後、語りのプロセスを図式化した(図 1)。

結果 上級生は下級生と話す中で「実習イメージがわからない」「不安な様子」といった「心情の推測」をする中「実習に行く前の自分を見ているような感じでした」「1 年前の私が不安を抱えていたように様々な不安を抱えていることを知った」と「過去の自己との重ね合わせ」をする姿がみられた。「話をしているうちにどんどん記憶がよみがえってきました」「自分が思っている以上に実習のことを覚えていると感じた」という言葉からは「意識下になかった実習経験の想起」が窺われ「できるだけ不安な気持ちがなくなるようにと思い、楽しかったことや元気づけることができる内容の話をするようにした」「不安に思っている点を私の経験から安心に変えてあげることができたら良いなと感じた」と「下級生への配慮」をもって経験が肯定的なストーリーとなるよう構成され語られていたことが推察された。「話をしているうちに、当時は辛いと感じていた実習でしたが勉強になる実習だよと自然に話せていて自分でも不思議に思いました」という言葉は経験に新たな意味づけがなされたことを示すものであろう。また「始まってみれば子どもとの関わりが楽しかったことを思い出し、今は不安に思っている教育実習も楽しいものになると期待を持てた」と「現在の自己との重ね合わせ」をし、自分自身をも鼓舞する言葉もみられた。「自分が感じたことを相手の気持ちになって伝えるという経験も今後保育をする上で大切なことだと思うのでこのような機会があってよかった」というような「経験を伝えた意義」に言及した学生が多く「自分も 1 年前不安に思っていたことを思い出し、しかしそのような経験があって今があると思うし、だからこそ様々な子どもたちへ関わるができるようになってきたと感じる」「3 年生との話を通して自分自身の実習を振り返り、当時は思わなかったが時間が経った今だからこそ見えてくるものもあった」という言葉からは「実習経験の意義の捉え直し」がなされていたことが推察された。

考察 実習経験が今の自分にどうつながっているのか下級生に説明可能にするためには、経験が自分にとって何を意味するものであったのか捉え直すことが必要となる。実習への不安を抱え真剣に耳を傾ける下級生を前にしたからこそ「励ましたい」「役に立ちたい」といった思いが生じ、「意味のある経験」として経験を再構築する動機づけとなっていたと推察される。さらに自らの経験を語るにより下級生に感謝され、力になれた喜びを感じたことが、自らの実習経験を価値あるものと再認識することへとつながったのではないだろうか。子どもの成長を支える保育という仕事の素晴らしさは目に見えにくいからこそ自己の成長感や価値を認識できる機会が肝要であろう。学生が経験の意味を見出し、自己肯定感をもつことのできるような振り返りのあり方を今後の課題として考えていきたい。(本報告は、全国保育士養成協議会第 55 回研究大会にて発表した内容をもとにしたものである。)

引用文献: 野口裕二(2009) ナラティブ・アプローチの展開. 野口裕二(編) ナラティブ・アプローチ. 勁草書房.

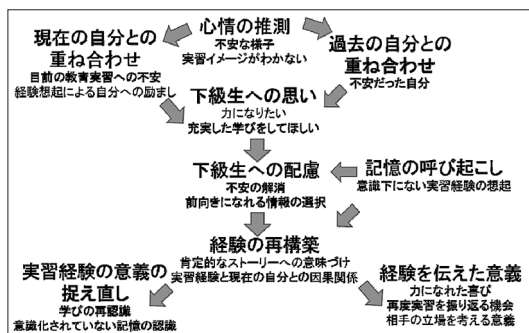


図 1 下級生との語りプロセス